

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 2月 25日

事業所名 Play

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・活動内容によって、レイアウト等を変更してスペース確保に努めている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		・職員数は十分であり、様々な分野に特化した職員が日々の支援にあたっている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	・階段の昇降の際は、気をつけるよう声掛けを行い注意喚起に努めている。	・1Fの壁については養生を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		・今後はミーティングの頻度を増やす。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		・口頭での確認はしていたが、アンケート調査をしていなかった。今後はアンケート調査を実施し、安心して利用いただけるよう業務改善に努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		・初年度のため、今回が初めての公開である。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		・今後は第三者委員との連携を密にし、聞き取りを行い、業務改善に繋げていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している		○		・常勤・非常勤問わず、今後は週1回のペースで様々な研修を実施する。
適切	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		・それぞれのニーズに合わせた計画を立てている。成長目まぐるしい時期でもあるので、これからはご家庭との面談を増やし、支援に落とし込んでいく。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・サービス提供記録を日々細かく記載することで、全利用者の現状をリアルタイムで把握することが出来ている。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・特に祝日や長期休みでは、イベントやレクリエーションをチームで企画立案出来ている。また、イベント毎に報告書を作成し、次年度以降に役立てている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している		○		・平日の活動内容には偏りが出ているので、日々のミーティングの中で決定していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		

切な支援の提供	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○					
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○			・帰りの会の中で少し触れることは出来ているが、職員のみでの打ち合わせは出来ない。業務日報の共有を今後は行う。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○					
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				・児童発達管理責任者を中心として、職員間で話し合いをよく実施している。また、HUGシステムを利用してモニタリング漏れがないように注意している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている		○				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				・児童発達管理責任者が参画している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○				・週末に翌週の時間割、下校時間の確認をおこなっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○				・該当児童がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○				・該当児童がいない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○				
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○				・児童館は定期的に利用しているが、コロナウイルスの影響もあり、交流は出来ない。今後は交流を検討している。

	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○		・地域の社会資源を有効活用し、子供部会への参加を検討している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・日々のサービス提供記録や、送迎時に利用の様子を口頭で説明している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・利用申し込み時に詳しく説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・若い世代の保護者への対応として、LINEなどのSNSを活用して定期的に行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		・今後検討していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している		○		・苦情解決処理の窓口を設立する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている		○		・検討はしていたが、コロナウイルスの影響により断念した。今後も検討していきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		・児童がいる時の訓練を今後実施する予定。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		・今後は事業所内外での研修を積極的に開催・参加する。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		・今後は支援計画に明記し同意をいただいた上での利用とする。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		・契約時に保護者から書面での確認は行っているが、指示書に基づく対応は出来ていない。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		・早急に作成し、共有する。